

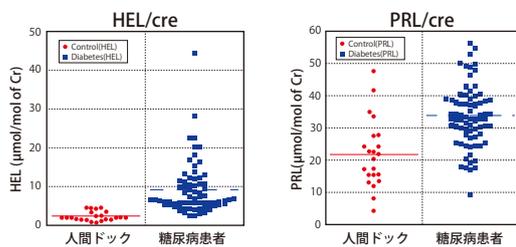
尿中酸化ストレス分析受託サービス

からだサビつき度チェック

※本サービスは研究用です。臨床用途にはご利用できません。

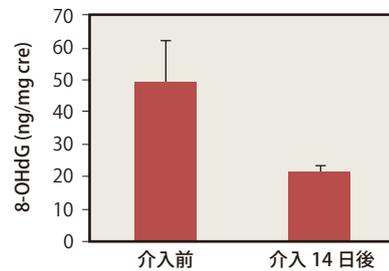
酸化ストレスとは、強い酸化力をもつ活性酸素の生成と消去のバランスが崩れた状態のことで、過剰に生成された活性酸素は、DNAや脂質、タンパク質などに障害を与えます。酸化ストレスはからだのサビつき度を表す指標と言われ、肥満や生活習慣病、認知症などの脳老化、疲労、白内障や肌老化など様々な疾病の発症メカニズムに関与しています。DNAの酸化損傷マーカーである8-OHdGのほか、 ω 6系と ω 3系それぞれの脂質酸化損傷マーカーであるHELとPRLの同時測定を実現しました。酸化損傷の初期段階を捉えるバイオマーカーとして、健康人の軽微な体の変化や機能性食品の健康効果に対する指標としてご活用いただけます。

酸化ストレスマーカーの健康者と糖尿病患者での比較



(Hisaka et. al. Free Radic. Biol. Med. 2009; 46: 1463-1471)

食事介入（野菜・果物摂取量）による尿中8-OHdGの変化



(Henry et. al. Carcinogenesis, 1999; 20: 2261 – 2266.)

14日間の食事介入で改善

特長

1. 豊田中央研究所が独自に開発したポリマー技術を用い、可視光で抗体を固定化したチップを利用。
2. 微量検体 (50 μ l) で測定が可能。
3. 自動化装置の開発により多量の検体を迅速に測定でき、低コスト化を実現。

検体採取・検体量・保存方法

測定項目	検体	検体量	保存方法
8-OHdG	尿 (早朝第一尿 or 24 時間蓄積尿)	50 μ l 以上	-20°C 以下
ヘキサノイルリジン (HEL)	尿 (早朝第一尿 or 24 時間蓄積尿)	50 μ l 以上	-20°C 以下
プロパノイルリジン (PRL)	尿 (早朝第一尿 or 24 時間蓄積尿)	50 μ l 以上	-20°C 以下

※動物種は限りません

※ご希望により尿中濃度補正物質 (クレアチニン) も追加測定します。クレアチニン測定をされる場合の必要検体量は 500 μ l 以上です。

※検体量が規程以下の場合や、特殊検体の場合は事前にお問い合わせください。

尿中酸化ストレス受託分析サービスの参考価格

品名	品番	包装	参考価格
尿中酸化ストレス受託分析サービス	HCSOXY	1 サービス	各項目 ¥ 7,000/ 検体

*検体数によって費用が変わります。お見積りをご依頼ください。

